

概説

少子化が依然として進行する中、次世代を担う存在として「子どもが心身ともに健やかに育つ」ことが、ますます社会全体の重要な課題となっている。しかし、平成 29 年度は、児童相談所の対応件数が過去最高となり、子どもの貧困率も、やや改善したとはいえ、未だ 7 人にひとりの子どもが相対的貧困状態にあることが指摘されるなど、子どもや子育て家庭を取り巻く状況は厳しいものとなっている。だからこそ、地域に密着し、子ども・子育て家庭の身近な相談窓口としての児童館の役割は大きいものがあり、市民からの期待もますます高まってきている状況にあると言える。

平成 29 年度は、事業推進委員会において全 7 ブロックで開催した活動指針研究会において「つながり」を全体テーマとし、児童館の主要な活動領域における様々な「つながり」の実相と課題について検討した。また、子どもを通じた家族支援に関する実践事例集「あめのちくもりそして晴れ」を発行し、京都市の児童館が子育て家庭の生活課題や福祉課題に関して長年にわたり多くの実践を蓄積していることを示し、生活課題や福祉課題に対する対応が、児童館の通常の機能のひとつになりつつあることを明らかにした。また、京都市・大学・連盟の三者が児童の学習支援に関する協定を結び、児童館における地域児童を対象とした学習支援のモデル事業を行い、地域に学習支援のニーズがあり、児童館が施設特性を生かしたアプローチが可能であることを示した。加えて、一部の児童館では「子ども食堂」の実施が模索され始めている。これらの一連の活動は、児童館職員にソーシャルワーカーとしての力量の向上が必要とされていることを示している。なお、学習支援事業は平成 30 年度より京都市において予算化され、全館を対象とした本格実施に繋がった。

一方、「子ども・子育て支援新制度」が 3 年目となり、増大する学童クラブ登録児童の増加にも児童館・学童保育所が様々な工夫をしながらクラス運営を実践した 1 年でもあった。しかし、分室や施設外クラスの設置・運営については処遇施設委員会が行ったアンケート結果から施設専有の問題など一定の課題があることが分かった。加えて、クラス担当を中心とした人材の確保と定着が大きな課題となっており、連盟としてのこの分野における機能強化が求められている。人材の確保と定着の観点からも職員処遇の水準が大きなファクターとなっているが、平成 29 年度は月例給の 3% 引き上げ、期末手当の 0.1 か月分の増額。そして新たに「経験手当」が創設されるなど、処遇面では大きく向上した 1 年であった。とりわけ「経験手当」は、支給対象が国の制度を上回る支給となっており、また、はじめて研修の受講と手当がリンクする画期的な改善と言え、京都市の英断にあらためて感謝の意を示したい。

最後に、今後の展開が期待される児童館ではあるが、平成 30 年度以降、施設監査の実施が本格化するなど、期待と同時に施設運営の透明性と説明責任がより一層、厳しく問われる状況となりつつあることを確認しておきたい。

I 健全育成・子育て支援事業

1 各委員会活動

(1)事業推進委員会

1 平成29年度 事業目標

本委員会は、「京都市児童館活動指針」（以下「活動指針」という。）の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的発展・推進を図ることを目的として、28年度の活動を踏まえながら、引き続き「活動指針」への理解・浸透を深める活動を実施する。また、指定事業である「中高生と赤ちゃんとの交流事業」については改めて理念や意義を再確認できる研修会を行う。

2 平成29年度 活動報告

事業目標に基づき、11月に全7ブロックに於いて「活動指針」研究会を開催した。今年度は「つながり」を全体テーマとし、児童館・学童保育所での取組がさまざまなつながりを生み出している点に着目しながら、「思春期児童への取組」「自由来館児童（小学生）への取組」「乳幼児とその保護者への取組」「学童クラブ事業」「地域福祉促進活動」の5つのテーマに沿って、各ブロックからの事例報告を基に活動指針を振り返った。

また、28年度の事業推進委員会の中で、「施設長を対象とした研修会を実施できないか。」という委員からの声を基に、1回目は施設長のみを対象・2回目は児童厚生・指導員のみを対象とした「中高生と赤ちゃんとの交流事業」研修会を企画し、それぞれの立場から捉えられる実態に即した内容で実施することができた。

平成27年度に実施した「学童クラブ事業の実施状況に関するアンケート」とほぼ同内容のアンケート調査を実施し、平成27年度の結果からの動きについて比較・検討を行った。

「活動指針」研究会では、全体テーマを設定することで、7ブロックの事例報告及び分散会において基本となる柱が設定でき、「議論の方向性がわかりやく話がしやすい。」という参加者の声が多くあった。全体テーマの設定は引き続き行っていく。

また「中高生と赤ちゃんとの交流事業」研修会については、本事業が開始してから15年を迎えるに当たり、改めて児童館で本事業に取り組む意義や理念等を振り返ると共に、映像を交えながら具体的なイメージを持ってもらう工夫、厚生・指導員自身がこの事業の素晴らしさや成果・課題を語るリレートーク等を内容に盛り込むことで、参加者にとってわかりやすい研修を企画、実施することができた。

平成27年度に取り組んだ「学童クラブ事業の実施状況に関するアンケート」を平成29年度に再度取り組み、その結果から、各施設でのクラス運営の方法が多岐に亘っている実態が捉えられた。次回の「活動指針」改訂を見据えて、引き続き実態把握と整理を行っていく。

平成29年度 活動実績

月	活動内容	委員会 / 会議等
4月		第1回正副委員長会議(4/21)
5月	年間活動計画決定	第1回委員会(5/9)
6月	第1回「中高生と赤ちゃんとの交流事業」研修会(6/30)	第2回正副委員長会議(6/5) 第2回委員会(6/8)
7月		第3回委員会(7/18)
8月	「平成27年度学童クラブ事業の実施状況に関するアンケート」からの追跡調査	
9月	研究会に向けての事前打合せ(全7ブロック)	第4回委員会(9/19) 研究会事前打合せ(4B:9/1 6B:9/8 5B:9/15 2B:9/20 1B:9/25)
10月		研究会事前打合せ(3B:10/5 7B:10/11) 第5回委員会(10/20)
11月	「京都市児童館活動指針(第3次改訂版)」研究会(全7ブロック)	研究会(7B:11/8 5B:11/9 2B:11/15 1B:11/20 3B:11/22 6B:11/29 4B:11/30)
12月		第6回委員会(12/19)
1月		
2月	第2回「中高生と赤ちゃんとの交流事業」研修会(2/19)	
3月	「京都市児童館活動指針(第3次改訂版)」研究会報告集の作成	第3回正副委員長会議(3/6) 第7回委員会(3/13)

(2) 処遇・施設委員会

1 平成29年度 事業目標

平成27年度にスタートした「子ども・子育て支援新制度」の下で、登録児童数の増加とクラス毎の支援の実施により、施設外クラスが増加する傾向が続いている。施設外クラスのために借りている施設の中には児童の生活の場となることを想定せずに作られた施設もあり、子どもたちの健全育成に関して十全なものとは言えない点も浮かび上がってきた。29年度の処遇・施設委員会では、分室及び施設外クラスに注目し、重点的な調査を行い、その結果を平成30年度の予算要望に最大限に反映させていく。

2 平成29年度 活動報告

5月1日 第一回委員会

- *平成29年度要望事項について、前年度委員会の要望項目を確認。
- *分室及び施設外クラスの設備環境に関する調査について提案。

7月3日 第二回委員会

- *平成29年度要望項目について決定。
- ①職員の処遇について
 - ・職員処遇の抜本的改善

- ・住居手当と扶養手当の支給
- ・超勤手当の年間限度時間数拡大と区分の廃止

②施設改善について

- ・トイレのバリアフリー化・洋式化を含めたトイレ環境の整備
- ・非常通報システムの修理及び更新や施設の耐震補強等の改善
- ・子どもを個別対応するスペースの確保

③1クラス館所の職員配置について

- ・1クラス館所における正規職員の配置基準の見直し
- ・分室及び施設外クラスにおける副館長相当の責任を持てる職員の配置

*調査実施について具体的な項目を検討。

この後、分室及び施設外クラスを有する対象施設4箇所について実地調査を実施した。さらに、その他15箇所に関して聞き取り調査を実施。

処遇・施設委員会からの要望項目は予算対策特別委員会に送られ、9月12日京都市に提出された。

11月21日 第三回委員会

*学童クラブの分室及び施設外クラスの設備環境に関する中間調査報告。調査結果から、以下の課題が見出された。

- ①地域団体や小学校と施設を共有して使用しているところは、地域団体や小学校が使用できるように、毎日施設を現状復帰しなければいけない。
- ②トイレの数・水道の蛇口の数分室や施設外クラスに登録している児童数に対して足りていないところがある。
- ③職員体制の都合上、17時以降は分室で過ごす児童も本館へ移動を求められることになっている場合がある。また、責任者が常駐できず、緊急時の対応が取りにくい。

この報告は、平成30年2月5日に開催された学童クラブ事業課題検討会議にあたり、参考資料として採用された。

3月9日 第四回委員会

*学童クラブの分室及び施設外クラスの設備環境に関する最終報告。中間報告で見出された課題についてさらに検討を行い、以下の3点の課題に集約された。

①職員体制の課題

本館と分室または施設外クラスの運営場所が離れていることで正規職員が分かれて配置されるため、職員体制の都合上分室の児童が17時以降は本館へ移動する等の不都合が生じている。勤務シフトを組むのにも困難がある。また、分室・施設外クラスには責任者が常駐できず、緊急時の対応が取りにくい。

②子どもを対象としない施設における運営上の課題

小学校以外で借りている施設の中には、大勢の子どもが利用することを想定して建てられていない建物もあるため、そういった施設では水道の数やトイレの数が不足していることで、児童の生活に支障が起きている場合がある。

③施設を借りているために起きている課題

専有・共有に関わらず、本館と同じように児童の放課後の生活を支援することが困難な現状がうかがえる。特に他団体と施設を共有している場合、他団体の使用が優先されるために、借りている施設で学童クラブを実施できない日が生じることがある。

以上をふまえ、分室・施設外クラスの設備環境の改善を目指して、平成31年度の要望項目に上記を挙げることを、次年度の委員会で検討すべき課題として集約した。

(3) 予算対策特別委員会

1 平成29年度 事業目標

予算対策特別委員会は連盟理事会の諮問機関として、理事会が京都市に働きかけるための要望書を起案し、京都市の児童館・学童クラブ事業を安定させるための制度・政策の向上と予算対策活動の推進を行う。

各専門委員会の意見・要望等を横断的に聴取・集約することで実情に合った要望をすくい上げると同時に、京都市児童館活動指針の十分な推進を旨として予算要望が策定されるよう、委員会活動を行う。

2 平成29年度 活動報告

1 第1回 委員会 平成29年7月20日

2 第2回 委員会 7月27日

3 第27回 理事会において要望書(案)の提示・承認を受ける 8月9日

(以下要望骨子)

(1)最重点要望

- ①学童クラブ面積基準の速やかな達成
- ②一元化児童館130館の枠にとらわれない積極的かつ柔軟な対応
- ③高い離職率を改善するための職員処遇の抜本的改善
- ④活動指針に基づく児童館事業の円滑な実施のために必要な事業費の確保
- ⑤学童クラブ1クラス運営の児童館における正規職員4名体制の復活

(2)重点要望

- ①事業の実施状況に応じた事業費加算制度のより一層の充実
- ②職員確保と定着の観点から、住宅手当・扶養手当の創設
- ③分室及び施設外クラスの施設環境の整備及び副館長の職員の配置に必要な措置
- ④超過勤務手当枠の拡大と、柔軟な運用のために必要な措置

- ⑤多様化する放課後対策の中にあつて、一元化児童館における学童クラブ事業の京都市の位置づけの堅持

(3)要望

- ①経年劣化の危険性がある既存の非常通報システムの見直し
②個別対応が必要な子どものために必要なスペースを確保するための施設増改築の検討
③地域の子育て支援・健全育成の拠点として多様な市民が来館されることを踏まえたトイレの整備(様式化・バリアフリー化を含む)

4 「平成30年度京都市予算に対する要望書」の提出 9月 12日

5 要望に対する回答 平成30年 2月 9日
平成30年度京都市児童館・学童クラブ事業関係予算案についての説明が連盟三役に対してなされた。

1 児童館・学童クラブ事業等 予算 【4, 141, 223千円】
昨年 【4, 020, 510千円】

(1)学童クラブ事業の充実

(2)「児童館における学習支援事業」の本格実施 【新規3,000千円】

(3)地域学童クラブ事業補助の1箇所増(14箇所→15箇所)【充実分5,700千円】

2 既存児童館の移転新築 予算 【36, 300千円】
京都市安井児童館

その後、懇談の場に於いて、「学童クラブ事業の充実」については、かねてから要望していたものであり大いに歓迎すると共に、基準に基づいた運営を行うため、実施場所の確保等に引き続き努力いただきたいと要望した。「児童館における学習支援事業」については、29年度にモデル的に実施していたものを、その実績に基づき全館を対象とした本格実施とするもので、今後の新たな児童館活動のひとつとして、円滑な実施に向けて、引き続き連盟と協議を重ねることを確認した。

さらに、予算配分が要望に対してどのように反映されるかについて個別の回答があり、最後に連盟三役から、29年度に経験手当の創設や、月例給与を平均3%増額改定し、京都市職員と連動して一時金を改定されたことは大きな前進であり、京都市の英断を高く評価すると共に、引き続き職員処遇の改善に向けて取り組まれるよう希望する旨を述べた。

6 第3回 委員会

2月 27日

- (4) 研修委員会「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。
- (5) 統合育成委員会「3 障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。
- (6) 広報委員会「5 広報活動」の項を参照。
- (7) やんちゃフェスタ 2017 実行委員会「6 京都やんちゃフェスタ2017（第1部）の開催」の項を参照。

2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

1 平成29年度 事業目標

- ・「京都市児童館活動指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施する。
- ・「中堅職員派遣研修」については、平成29年度以降も継続的に見直しを進め、今後も本研修の重要性を認識し、より多くの職員が参加できるように努めていく。

2 平成29年度 活動報告

平成29年度は、事業計画で示した年間25回の研修に加えて、「経験手当」の創設に伴う補講を実施したため、年間計31回の研修会を開催した。

今年度に創設された「経験手当」は、従事職員の経験に応じて支給される仕組みの手当であるが、職員の経験を図る上で勤続年数、並びに行政研修の特定科目の受講が支給条件となっている。研修を受講することによる各自の資質の向上が、手当の支給という形で具体的に処遇に反映するようになったことは研修事業にとって大きな意味を持つ。研修受講のインセンティブを呼ぶことは間違いないが、今後は研修受講の効果測定をどのように行うか等の課題が生まれてくると思われる。

各研修会の企画から実施にあたっては、現在の児童館・学童保育所職員に必要なスキルを修得でき、実際に活動に生かしていける内容となるように心掛けた。

「中堅職員派遣研修」では、参加した職員と研修者を受け入れた施設長が、どのような成果と課題を得たのか、より具体的に振り返ることができるよう、研修終了後の報告会においては、報告だけでなくグループワークも取り入れて内容を深めることができた。

(一財) 児童健全育成推進財団の主催する研修への派遣については、応募者が募集定員に満たない研修もあり、平成30年度は積極的な参加を促すよう各館所へ発信が必要である。

(1) 委員会（年間5回：4月、6月、7月、12月、3月）

- ・行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告。
- ・全7ブロックで実施する実技研修とブロック企画研修の立案、企画、事後報告。

(2) 研修会

① 行政研修

② (一財) 児童健全育成推進財団への派遣研修

①行政研修 ※ ()は外部受講者人数

実施日	科目		講師		受講者数	
4月26日	健全育成論		國重晴彦	連盟 統括監	89人 (内8人)	
4月26日	児童館論Ⅰ		山崎真由美氏	西賀茂児童館 館長	66人	
4月27日	児童館論Ⅱ		川畑依子氏	西京極西児童館 館長	69人 (内13人)	
4月27日	京都市の児童館・学童クラブ事業		松本紀子氏	桂徳児童館 館長	72人 (内3人)	
5月12～25日	救急法「普通救命講習Ⅲ」		消防署救急係	京都市消防局 各行政区	121人 (内18人)	
5月17日	安全指導・安全管理		赤木功氏	竜田古道の里山公園 所長	131人 (内42人)	
6月5日	実技研修 造形表現活動		たけうちひろ氏	子ども造形絵画教室おえかきひろば	34人	
7日	実技研修 身体表現活動		矢野永吏子氏	大谷大学短期大学部	31人	
8日	実技研修 野外活動		中村彰利氏	京都YMCA	35人	
12日	実技研修 ゲーム・運動遊び		阪田隼也氏	運動遊び指導組織リーベ	32人	
14日	実技研修 音楽表現活動		中村麻衣子氏	MyRhythm音楽事務所	31人	
21日	実技研修 児童文化財活用法		岩城敏之氏	キッズいわき ぱふ 代表	32人	
23日	配慮を要する児童の対応		中尾繁樹氏	関西国際大学 教授	95人	
26日	障害のある児童の統合育成Ⅰ		宮内賀永子氏 他3人	京都府自閉症協会事務局長 (他3人:高機能アスペルガー部 保護者)	96人 (内8人)	
27日	実技研修 科学遊び		矢延直樹氏他	青少年科学センター	33人	
7月6日	児童文化財活用法2		宍戸信子氏	子どもと育ちの総合研究所	82人	
9月28日・11月17日	地域援助技術 講義・演習		徳岡博巳氏	大谷大学短期大学部 教授	220人 (内19人)	
10月2日	施設長研修		河野寿志氏 橋本珠美氏	京都市教育委員会 指導主事 株式会社ユメコム 常務取締役	102人	
10月17日	障害のある児童の統合育成Ⅱ		土屋健弘氏	京都市北部障害者地域支援センター 「きらりんく」センター長	93人 (内5人)	
12月21日	人権研修		西林幸三郎氏	大阪芸術大学 初等芸術教育学科 教授	145人 (内40人)	
2月9日	上級研修		清水勲夫氏	野外活動協会 専務理事	31人	
2月21日	児童の発達理論		原田正文氏	大阪人間科学大学 副学長	199人 (内69人)	
9月5日～20日	研 修 中 堅	中堅職員派遣研修			24人	
1月25日・30日		プレゼンテーション術		森際孝司氏	京都光華女子大学短期大学部 教授	49人
5月29日	研 修 中 堅 派 遣	中堅研修事前説明会			41人	
7月11日		中堅職員派遣研修オリエンテーション		齊藤敦彦氏	京都市児童館学童連盟 研修委員会 副委員長	41人
10月23日		中堅職員派遣研修事後研修会		前川修氏	京都市児童館学童連盟 研修委員会 委員長	21人
24日		中堅職員派遣研修施設長報告会				22人

※ブロック企画研修(「児童館・学童クラブ研究Ⅰ」)

ブロック	実施日	研修内容	講師	開催機関	受講者数
1	7月 17日	新制度をよりよく運営するために学びあおう	谷垣賢氏	京都市教育委員会	
	1月 17日	ちょっと気になる子どもへの支援について	各厚生・指導員		35人
2	9月 21日	児童館での写真の撮り方について学ぶ	中山和弘氏	写真家	23人
	11月 16日	児童館で活用できる「えほんのちから」について学ぶ	花田睦子氏	えほん館 代表	23人
3	9月 21日	学童クラブの日々の生活・活動で大切なこと	清都ひさ子氏	境谷児童館 館長	32人
	1月 18日	食育の基本的な考えについて	三宅聖子氏	幼保総合支援室 管理栄養士	19人
4	7月 20日	子どもを守るための防犯対策	小野信義氏	山科警察署 生活安全課	22人
	11月 1日	楽しいみんなあそび	萩原一郎氏	レッツ倶楽部 リハビリトレーナー	22人
5	7月 6日	保護者に寄り添う温かい支援	田村直樹氏	岡山商科大学 准教授	22人
	12月 4日	片づけは仕事上手	飯吉昌子氏	嵯峨野児童館 館長	24人
6	7月 12日	児童館の悩み	各厚生・指導員		31人
	11月 6日	絵の描き方(導入と指導)	久保千鶴氏	久世児童館 館長	38人
7	7月 5日	絵本の読みがたりとわらべうた	岡田典子氏	京都南この本大好きの会	25人
	11月 16日	学童クラブの集団作りについて	森徹氏	虹の子クラブ 指導員	29人

※補講(経験手当に係る研修。平成29年度のみ実施。)

実施日	科目	講師	開催機関	受講者数
2月 13日	救急法「普通救命講習Ⅲ」(補講)	消防署救急係	京都市消防局 (1月15日:上京、2月13日:中京)	(内4人)
1月 19日	障害のある児童の統合育成Ⅰ	宮内賀永子氏 他3人	京都府自閉症協会事務局長 (他3人:高機能アスペルガー一部 保護者)	16人 (内7人)
1月 24日	配慮を要する児童の対応	田爪宏二氏	京都教育大学 教育学科 准教授	22人 (内15人)
2月 1日	健全育成論	國重晴彦	連盟 統括監	8人 (内5人)
2月 16日	京都市の児童館・学童クラブ事業	國重晴彦	連盟 統括監	21人 (内8人)

②(一財)児童健全育成推進財団への派遣研修

研修名	実施日	場所	北川雅彦	受講者(大内)
児童厚生員等基礎研修会 (前期 東京会場)	6月 27日~30日	東京都	齊田正美 吉良隼吾 阿部昭子 藤田隆文	(横大路) (向島南) (桂徳) (桂東学保)
中堅児童厚生員等研修会	10月 3日~6日	愛知県 豊橋市	山田英二 藤井淳 山田友樹 松本紀子	(向島南) (横大路) (下鳥羽) (桂徳)
児童厚生員等基礎研修会 (後期 大阪会場)	10月 24日~27日	大阪市	大道裕樹 高谷明歩 大江未来 丹野佳奈 尾崎恵梨	(修学院第二) (花山) (常磐野) (嵯峨野) (葛野)
全国児童厚生員等指導者養成	11月 14日~16日	東京都	溝口晋太郎	(たかつかさ)
全国子どもの健全育成リーダー養成	1月 20日・21日	東京都	小倉真由美	(新林)
児童厚生1級特別セミナー	2月 23日・24日	東京都	参加者なし	

3 障害のある児童の統合育成事業

1 平成29年度 事業目標

ノーマライゼーションの理念に基づき、児童館において障害のある子どもも障害のない子どもも同じように過ごせる場づくりを進めることを目標として実施する。

- (1) 学童クラブにおける障害のある児童の居場所作りと児童館・学童保育所職員の統合育成にかかわる専門性の向上を図る。
- (2) 障害のある児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

2 平成29年度 活動報告

発達障害及びその他の多様な障害に関する研修を、講義形式だけではなく施設職員のニーズに対応した研修形態で実施した。

関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については今後も具体的な方策を基に継続して推進していく。

【活動内容】

- (1) 委員会（6回）4月・6月・9月・10月・1月・2月
・9月は、京都市立北総合支援学校の見学と説明
・主な案件は、職員研修会・介助者研修会・各研修会の開催について討議
- (2) 統合育成連続講座（5回）…6月・7月・9月・11月・1月
対 象：児童館長・学童保育所長・児童厚生員・指導員 42名
テーマ：「発達障害の理解について」等
講 師：京都市児童福祉センター 総合支援担当係長 岡崎達也氏
京都市立北総合支援学校 校長育（はぐくみ）支援センター 担当教諭
- (3) ケース検討会議（10回）…全体会：統合育成委員対象2回・各児童館：8回
テーマ：児童館におけるケース検討会（カンファレンス）の持ち方
講 師：京都教育大学准教授 田爪宏二氏・洛西愛育園発達相談員 高木恵子氏

【研修会の概要】

①職員研修会（2回）

「障害のある児童の統合育成Ⅰ」 6月26日（月） ひと・まち交流館京都
テーマ：「自閉症スペクトラムの理解のために～保護者の体験談～」

講 師：京都府自閉症協会 事務局長、高機能アスペルガー部保護者

「障害のある児童の統合育成Ⅱ」 10月17日（火） キャンパスプラザ京都
テーマ：「障害のある子どもを中心とした地域連携・制度」について

講 師：京都市北部障害者地域生活支援センター「きらリンク」センター長
土屋 健弘 氏

②介助者研修会（2回）

「障害のある児童の統合育成①」 6月28日（火） 京都アスニー

テーマ：「発達障害がある子の見え方・感じ方」

講師：京都市立呉竹総合支援学校 育(はぐくみ)支援センター支援部長 大藪 晶氏

「障害のある児童の統合育成②」 11月6日（月） しんらん交流館

テーマ：「障害のある子どもの『できること』を伸ばすコミュニケーション」

討議の柱立て：公益社団法人京都市児童館学童連盟 統合育成担当主任 北村 光代

研修形態：グループ討議（各グループのコーディネーターは統合育成委員が行う。）

(4) 「課題別実践交流会」(4回) [新規事業]

・ 第一回「車椅子の押し方」 6月20日（火） 京都市立北総合支援学校

講師：京都市立北総合支援学校 育支援センター教員

・ 第二回「病弱や難病の児童への対応」 10月4日（水） こどもみらい館

講師：京都市教育委員会体育健康教育室 副主任指導主事 長光 裕子 氏

・ 第三回「ダウン症児の理解」 12月12日（火） 京都市児童館学童連盟事務局会議室

講師：京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル保護者

・ 第四回「肢体不自由児の理解」 2月6日（火） 京都市立北総合支援学校（見学も兼ねる）

講師：京都市立北総合支援学校 育支援センター教員

(5) 介助者派遣事業（通年）について

- ・ 大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの掲示及び配架・配布依頼の実施。
- ・ 新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載。
- ・ 毎週金曜日の登録事務の実施。

4 子育てボランティアバンク事業

1 平成29年度 事業目標

地域における子育て支援の風土づくりの一つとして、広く子育てに関心のある方にボランティアとして登録していただき、児童館や地域の子育ての場を支えるボランティアの人材を育成する。同時に、ボランティアを求める団体・施設からの情報も募集し、地域における子育てボランティア活動の活性化を図る。

登録会員に対しては、活動のきっかけづくりとなる児童館ボランティア体験（年4回）、実際に役立つ技術を学ぶ講習会（年2回）、やんちゃフェスタなどのボランティアスタッフ体験（年2回）を実施、児童館職員に対しては、施設職員に対してボランティア受入れの工夫を学ぶ研修会（年1回）を実施する。登録会員と施設とをつなぐ、交流研修会も実施する。

2 平成29年度 活動報告

(1) 会員登録・募集情報の受付

登録会員数：510人 平成30年3月31日現在

(平成29年度新規登録会員数は13人)

募集情報数：30団体

(2) 講習会、交流研修会の開催

- ・登録会員向けに講義と実技、募集团体の職員向け講義、登録会員と募集团体の職員との交流会を実施。
- ・登録会員がボランティア活動を始めるきっかけとなるよう、児童館でのボランティア体験(2箇所)「やんちゃフェスタ(第1部)・(第2部)」でのボランティア体験を実施。

[成果]

- ・ボランティア体験の回数を増やしたため、体験参加者数が増えた。
- ・なかなか活動に踏み出せない会員がボランティア体験に参加し、活動への意欲を高めた。

日程	内容	講師・施設	参加者数
6月23日 7月7日	ボランティア体験 ＜内容＞乳幼児親子対象の乳幼児クラブ活動への関わりと学童クラブ児童との遊びを通じた関わり、2つの活動内容を各児童館で体験する。	祥栄児童館 樫原児童館	3人
9月26日 9月30日	ボランティア体験 ＜内容＞同上	室町児童館 吉田児童館	6人
10月7日	会員向け講習会 ひとり親支援センター「ゆめあす」見学会 ＜内容＞ひとり親家庭での子育ての現状を知り、どのようなサポートが必要とされているかを学ぶ。	ひとり親支援センター事務局長	4人
10月28日	ボランティア体験 ＜内容＞京都やんちゃフェスタ2017(第1部)のコーナースタッフとして「駄菓子・缶ジュース」「宝石すくい」各コーナーを担当。	梅小路公園	7人
11月11日	実技講習会 ＜内容＞バルーンアートの制作と実技の活かし方を学ぶ。	子育てボランティアバンク 担当者	3人
11月25日	ボランティア体験 ＜内容＞京都やんちゃフェスタ2017(第2部)のコーナースタッフとして、「バルーンアート」コーナーを担当。	みやこめっせ	6人
12月16日	ボランティア体験 ＜内容＞ふぁみさぼまつりスタッフのサポート。子連れの来場者と触れあう。	こどもみらい館	4人
2月14日	施設向け研修会 ＜内容＞「みんなでつくる、児童館流ボランティアマネジメント」～少年は必要とされて初めて大人になる～	塔南の園児童館 館長池田英郎氏	16人

(3) 広報活動

- ・ホームページの運営

登録方法の案内(オンライン登録を含む)と、ボランティア募集团体の活動内容を掲載。

- ・チラシ・ポスターの配布・掲示
- ・児童館・学童保育所へ講習会等のチラシ配布、「れんめいニューズレター」への掲載、やんちゃフェスタ等イベント時のチラシ配布

5 広報活動

1 平成29年度 事業目標

広報物については、読み手にとって親しみをもたれる紙面を目指し、常に紙面刷新の意識をもって活動を展開する。

- ・京児連だより「キッズステーション」は、公益性を意識し、市民に対し児童館・学童保育所の活動をPRすることを目的に発行を行う。
- ・「れんめいニューズレター」は、職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行う。
- ・児童館・学童保育所の活動と連盟の事業をPRするため、ホームページの管理・更新を行う。

2 平成29年度 活動報告

今年度は、これまでの型に留まらず形を変えていくという方針を持って取り組んだ。

キッズステーションは目新しさを持って読んでもらえるように、題字の刷新に取り組んだ。今後はさらに、読者は誰なのかを意識した紙面作りを行うこと、また、児童館をさらにPRすることができる内容とすることに主眼を置いて作成していく。

ニューズレターについては、初めてアンケート調査を行い、次年度以降の記事刷新の方向性について模索した。児童館・学童保育所の現場において“どういった記事がよく読まれているのか”“読者が望む記事内容は何なのか”等について調査を行った。その結果、写真等があればよりイメージを持って読むことができる等の声が寄せられたため、次年度以降の紙面作りに生かしていく。

ホームページ研修は、昨年度の参加者アンケートを参考にしながら、受講時間を150分から180分に拡大して実施した。各施設における操作はもとより“誰もが見やすいレイアウトの工夫”“クリックしてみたいくなるリンクタイトルの作り方”等をテーマとした研修内容で実施した。参加者アンケートからも好評だったため、次年度にも継続していく。

(1) 委員会の開催(4回) …①6月1日(木)・②1月28日(火)

③2月2日(金)・④3月14日(水)

(2) 機関紙 京児連だより「キッズステーション」の発行

①発行回数：年4回(4月・7月・10月・1月発行) 125号～128号

②発行部数：1回につき、約16,000部

- ③配付先 : 各児童館・学童保育所 及び 育成推進課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、報道関係、京都府立総合資料館、連盟理事・監事 等 (約90箇所)

〔主な記事〕

126号 (7月): 「京都市の児童館」ホームページの紹介

「京都やんちゃフェスタ2017 第1部」予告

「児童館・学童保育所まつり」の報告

「夏のおアシス クールキッズステーション」について等

*4面コラム『遊び読み』のすすめ②…花田睦子 氏

127号 (10月): 「京都やんちゃフェスタ2017 第1部」紹介

「京都やんちゃフェスタ2017 第2部」予告

「親子でニコニコ笑顔いっぱい」予告

児童館の活動紹介

*4面コラム「健やかに育つ『カラダとココロの根っこづくり』①

～乳幼児期は一生の土台をつくる～…福本智恵子 氏

128号 (1月): 「子どもを共に育む京都市民憲章」について

「やんちゃフェスタ2017 第2部」報告

児童館の活動紹介

*4面コラム「健やかに育つ『カラダとココロの根っこづくり』②

～小学生の姿勢、ケガと学力・能力～…福本智恵子 氏

129号 (4月) 発行予定: 「児童館・学童保育所まつり」紹介

児童館の活動紹介

*4面コラム「子どもの『主体的なやる気』はどのように育つか?」①

～周りのおとなが心がけたいこと～…伊藤崇達 氏

(3) 職員情報誌「れんめいニューズレター」の発行

①発行回数: 年12回 (毎月5日発行) 250号～261号

②発行方法: メール送信及郵送(9月発行号よりメールによる送信をアルファオフィスへの掲出に変更)

③配付先: 各児童館・学童保育所 及び 育成推進課、関係機関、連盟理事・監事 等 (約25箇所)

(4) ホームページ「京都市の児童館」の更新

児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRすることを目的とする。連盟の事業に関する情報についても随時更新を行った。「キッズステーション」をバックナンバーを含め掲載した。

その他、「見る側にとって欲しい情報を得ることができるページ作り」等を盛り込んだホームページ研修を行った。

6 京都やんちゃフェスタ2017 (第1部) の開催

1 平成29年度 事業目標

テーマ「遊びの復権・子どもの人権の尊重・ノーマライゼーションの推進」に基づき2部構成で開催。

第1部は「梅小路公園に児童館がやってくる！！」をキャッチコピーに、「みーつけた！こころつながる あそびの文化」をサブテーマに掲げ、それに基づいた企画を展開する。また、昨年度から「子どもの参画」として児童館・学童保育所のコーナーやステージでの司会等、子どもたちが活躍する場を展開し、小学生等の主体的な活動の場としているが、平成29年度は対象の拡大を目指し中高生の参画を推進する。

第2部は主に乳幼児を対象とし、「子育て・子どもたちってこんなに素敵だよ！」をテーマに実施する。

2 平成29年度 活動報告

(1) 京都やんちゃフェスタ2017（第1部）実施内容

日 時：平成29年10月28日（土） 10時～15時30分

会 場：京都市梅小路公園

来場者数：約21,000人

内 容：ブロック・ステージ（中央・大宮芝生）・フィールド企画の3構成で実施。

当日は降雨のため雨天対応の中で開催した。降雨によりフィールドで展開するブースやステージの発表について見合わせる団体等もあり、全体としては規模を縮小した開催となった。

○ブロック企画

児童館・学童保育所の活動をPRするため、遊びのコーナーを展開し、「子ども参画」を予定していたが、雨天対応として子どもの参画は見合わせながら縮小して実施した。

○ステージ企画

中央ステージでは、オープニングセレモニー（京都外大西高等学校チアリーディング部）、「ライブトゥギャザー」「クッキーズコンサート」、エンディングを展開予定であったが、オープニングの中止等雨天プログラムとして実施した。

大宮芝生ステージでは、雨天のため、ステージ発表者や子ども司会のキャンセル等もあったが、「ストリートライブ」「マクドナルドショー」「ゆるキャラタイム」等を展開した。

○フィールド企画

雨天による縮小はあったが、実行委員会によるコーナーでは「絵画展示」「駄菓子・缶ジュース」「宝石すくい」「東日本大震災募金」等のコーナーを展開し、各関

係機関・団体・大学のコーナーとして、京都市内の各大学のサークル・ゼミ等が展開した。

*「みつけた！おきにいりのあそび」を絵画テーマに子どもたちの絵画作品を募集。応募総数は2,066点となり、最優秀作品を京都やんちゃフェスタ2017のポスター・チラシに採用した。

(2) 組織体制

実行委員会（フェスタに関わる重要事項の審議・決定、予算及び決算の承認等）、業務部会（実行委員会の事務処理、事業の円滑な推進）、企画委員会（フェスタの企画立案・調整、業務部に提案）を設置。

(3) 委員会の開催

実行委員会…3回、業務部会…4回を開催。その他各担当者による会議を開催。

※京都やんちゃフェスタ（第2部）について

平成29年11月25日（土）、みやこめっせにて実施。

ペンシルバルーンのコーナーやステージにて「子育て支援ステージ～児童館の『幼児クラブ』がやってくる♪～」を展開し、来場された乳幼児親子に児童館の活動をPRした。来場者数は約12,500人。

7 子育て支援のための普及事業・京都市はぐくみ憲章の啓発活動

1 平成29年度 事業目標

公益社団法人として、広く市民・府民に受益の機会を開き、子育て家庭に対し親子が共に楽しめるひとときを提供するためにスタートした事業であるが、様々なイベントへの参加を含め、連盟の果たす役割をアピールする機会が増えてきている。近年では「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都市はぐくみ憲章)」の普及啓発にも力を注いでいる。

2 平成29年度 活動報告

「夏のオアシス！クールキッズステーション」

実施期間：平成29年7月1日～9月30日 平日および土曜日の午前10時～午後5時

子育て親子や高齢者の方々を対象に、児童館を夏季の日中の居場所として提供し、京都市の節電対策に連携、各家庭での電力消費の削減に寄与することを目指して取り組んだ。

市内131箇所すべての児童館を地域における「クールスポット」と位置づけ、様々なイベントを実施することで、多様な年代の人々に児童館に親しんでもらうきっかけを作った。

「子どもたちの願いを乗せて」 ―京都市営交通との連携事業―

市営交通のさらなる利用の促進と、児童館・学童クラブの取組をアピールするため、平成22年度から継続している事業である。

- ・『京の七夕』事業とのコラボレーション 平成29年8月5日(土)～8月13日(日)

市内の児童館・学童保育所の子どもたちが書いた願いごとの短冊が、地下鉄東西線二条城駅前に掲示され、二条城周辺で行われたイベント参加者の目をひいた。

- ・市営地下鉄東西線開業20周年イベント 平成29年9月2日(土)

「電車・バス・ファン感謝祭」に児童館利用児童が参加し、合唱を披露した。

「京都岡崎レッドカーペット」

今年度は「東アジア文化都市2017」と連携して開催された「京都岡崎ハレ舞台」の一環として、平成28年9月16日(土)実施された。児童館から約30名の子どもたちが参加し、ダンスパフォーマンスによる日ごろの取組の成果を披露した。

「親子でにこにこ 笑顔いっぱい」～『子どもを共に育む京都市民憲章』をひろめましょう!～

日 時 : 平成30年1月27日(土) 10:30～15:30

場 所 : 京都こども文化会館 エンゼルハウス(京都市上京区)

公演内容 : 「京都はぐくみ憲章ステージ」「おじゃる丸キャラクターショー」

子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都はぐくみ憲章)の普及を目指し例年実施するイベント。昨年度に続いて午前の部・午後の部の二回公演を実施し、昨年度より100人多い約900人の親子が参集し親子の絆を深めた。来賓として京都市長を迎え、市の子育て支援の取組について挨拶を得た。さらに児童館・学童保育所の子どもたちがステージ上で京都はぐくみ憲章のテーマソングを合唱することで、憲章の理念と実践について理解を深めた。

「第5回 京都子ども将棋交流大会」

日 時 : 平成29年3月3日(土) 9:30～17:00

場 所 : しんらん交流館(京都市下京区)

洛和会ヘルスケアシステム主催、日本将棋連盟京都府支部連合会ならびに当連盟共催で開催された。参加者は募集範囲を広げた結果、亀岡市内の放課後児童会を利用する子どもたち13名も加え、過去最大の約308名を数えた。予選リーグ・決勝トーナメントを経て、低学年の優勝者には、門川大作京都市長より「京都市長杯」、高学年の優勝者には、洛和会ヘルスケアシステム矢野一郎理事長より、「洛和会丸太町病院・音羽病院杯」が授与された。

さらに、今大会で決勝トーナメント第3回戦まで進出した40名の参加者たちは、来る5月12日に開催される「羽生善治永世七冠のお話を聞く会(仮称)」に招待されるなどの栄誉が与えられた。

8 大学と連携した学習支援事業

1 平成29年度事業目標

京都市が、平成29年3月に「京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」を策定し、その具体策として、「行政」「大学」「児童館」がそれぞれの強みを活かし、「三位一体」となる連携のもと、「全ての子ども、若者が無限の可能性を發揮できるまち・京都」を推進する。

本事業は、「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼、これらの課題に対して、身近な子どもの居場所である「児童館」を活用し、地域の子どもたちへの学習支援に取り組むものとし、また、子どもたちにとって身近な「お兄さん、お姉さん」のような存在の大学生ボランティアの力を活かし、保護者以外の大人との関わりの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化解消を図る。

今年度は、モデル事業として実施し、事業効果の見極め、今後の事業の拡大について検討する。

2 平成29年度活動報告

「大学との協定締結」

京都市、4大学（大谷大学・同短期大学部、京都教育大学、京都橘大学、花園大学）、児童館学童連盟の間で、次の内容の協定を締結した。

締結日 平成29年7月28日（金）

協定内容

- ・児童館において実施する学習支援事業の大学生への派遣
- ・児童の健全育成活動全体の活性化
- ・大学生等の知識・技術の向上、人材育成 等

「児童館でのモデル事業」

モデル事業実施児童館：6館

・西陣児童館 ・京都市勧修児童館 ・大宅児童館 ・京都市大塚児童館
・塔南の園児童館 ・うずらの里児童館

「事業の実施体制」

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学：大学生の派遣協力

大学生：子どもへの学習支援、相談支援

京都市：事業への助言、技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート、大学生派遣の窓口＝児童館との橋渡し

モデル事業実施児童館では、7月から順次開始した。

モデル事業であったことや、事業実施児童館と協定締結大学との距離の問題などの条件により、実施状況には差が生じたが、大学生との勉強や遊びの体験や児童の学習への生活習慣づけに効果があったと認められた。

9 学童クラブ利用料算定事業

1 平成29年度事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、保護者世帯の課税状況にを元に決定する応能負担制となっている。連盟事務局では市内児童館130館・学童保育所9所の利用料算定事務を、会員に代わって公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進める。

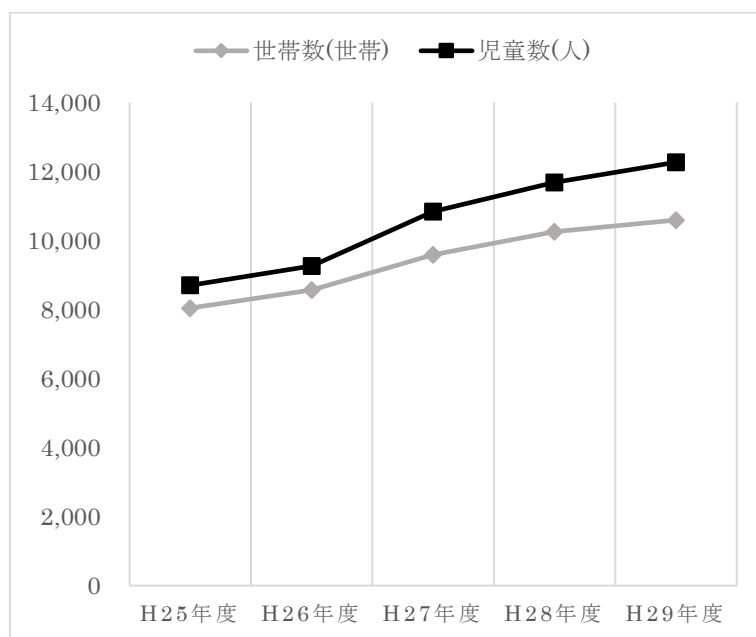
2 平成29年度活動報告

下記に示すように、学童クラブの登録児童は従来から増加傾向にあったが、「子ども子育て支援新制度」開始以降、利用対象児童が小学校6年生までに拡大したため、平成29年度には児童数は12,000人を超えた。

施設における利用料徴収事務が滞ることのないよう、連盟事務局では算定事業の体制を年々強化、新年度に向けた登録申請が集中する2月以降は特に事務量が増えるため、29年度も機器の整備と人員体制を強化し、迅速に利用料の決定通知を施設に届けられるよう努めた。

学童クラブ登録児童数(世帯数)の推移

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
児童数(人)	8,702	9,264	10,839	11,682	12,266
世帯数(世帯)	8,042	8,569	9,585	10,252	10,592



10 京都市有料指定袋無償配布事業

1 平成29年度事業目標

京都市においては「家庭ごみ有料指定袋制」実施にあたり、日常的に紙おむつを使用している市民に対する負担の公平性の原則に鑑み、紙おむつ使用世帯に対する特例措置として一新生児につき一回限り有料指定袋の無償配布を行っており、連盟は市環境政策局から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託している。

市内131箇所の全児童館でスムーズな配布事業を遂行すると共に、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業ならびに子育て支援の機能について、周知広報することを目標とする。

2 平成29年度活動報告

(1)配布対象

京都市内の新生児を養育する世帯に、京都市保健福祉センターから届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯を対象とする。

(2)配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)を有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋(燃やすごみ用)「30リットル袋40枚」、または「20リットル袋60枚」を引換配布する。その際、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したPR用のチラシ・乳幼児クラブの案内チラシなどを配布し、児童館の利用を促す。

(3)引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局ごみ減量推進課へ報告する。平成29年度の総引換え件数は2,359件であった。

11 無料職業紹介事業

1 平成29年度事業目標

児童館・学童保育所における人材不足を改善するために、求職者と事業運営団体を周旋し、利用者にとって安心・安全な児童館運営を実現するために、職業安定法に基づく無料職業紹介事業「児童館人材マッチングセンター」を開設・実施する。

2 平成29年度活動報告

平成29年度に本事業が京都府から公益認定を得たことを受けて、厚生労働省の許可取得に向けて開設準備を進めている。

12 京都市ファミリーサポート事業

1 平成29年度事業目標

- ・多様化する子育て支援のニーズに対応するため、提供会員を増やすよう広報活動を推進する。
- ・提供会員の資質向上のためレベルアップ講習を拡充する。
- ・支部においても入会申込の受付・活動依頼の受付・登録会及び講習会を開催し、市民の利便性を図る。
- ・提供会員向けに支部交流会を開催し、支部を拠点とした提供会員のネットワークづくりを推進する。

以上を通じて、地域に密着した事業の展開をはかる。

2 平成29年度活動報告

平成29年度から子どもを預かる会員に必修となった緊急救命講習（実技）を年間5回の講習会に盛り込み、さらにレベルアップ講習会の回数を年間4回に増やし、提供会員の資質向上に努めた。

子どもの事故を未然に防ぎ、安心安全に活動を進めるため、

- ① **保存版** 事前打ち合わせ時のチェックリスト
- ② **保存版** ちょっとまって！その食べ物（事故防止啓発リーフレット）
- ③ ふぁみさぼ通信「ヒヤリ・ハット事例特集号」

を作成し、事故防止に努めた。

本部と市内14か所の支部と京北地域において、登録会の開催や活動依頼の受付・相談等に対応し、地域に密着した子育て支援に取り組んだ。

(1) 統計

会員種別	会員数	29年度増減	平成29年度 活動総数		10,132
依頼会員	5,743	△157	<活動件数 上位の内訳>		
提供会員	971	△8	1	保育施設の迎え及び帰宅後の援助	3,505
両方会員	185	△16	2	保育施設の登園前の援助及び送り	1,252
合計	6,899	△181	3	子どもの習い事等の援助	1,217

(平成30年3月末現在 単位：人)

(単位：件)

(2) 会議・講習会・交流会等実績

	内容	時間数	回数
地域リーダー会議	交流会開催の打ち合わせ・会報誌の企画等	2時間	12回
支部長会議	誤飲事故の経過説明とその後の取り組み、事業の総括	2時間	2回
ワーキンググループ	事故防止リーフレットの企画等	2時間	2回
登録会(本部3回・支部42回・京北3回)	依頼会員に登録するための登録会	1時間	48回
講習会(本部2回・支部3回)	提供・両方会員に登録するための講習会	7時間40分	5回
レベルアップ講習(実技)	普通救命講習Ⅲ	3時間	4回
レベルアップ講習(講義)	子どもの栄養と食生活	1時間30分	1回

交流会	開催日時	実施場所	参加人数
全体交流会 (京あんしんこども館セーフティハウス見学・意見交流・こどもくじ引き大会)	9月12日	京あんしんこども館 (セーフティハウス・1Fホール)	22
地域別交流会 (支部と共催：提供会員・両方会員の意見交流)	11月6日 11月17日 11月29日	深草児童館 新道児童館 塔南の園児童館	14
ふあみさぼまつり (マジックショー・ペットボトル工作と折り紙工作・缶バッジ・さかなつりゲーム・くつろぎの5つのコーナー)	12月16日	こどもみらい館 (第1研修室)	180

(3) 広報実績

	回数・部数	内容
会報誌「ふあみさぼ通信」発行	3回 24,200部	全会員及び関係機関に配布
「事前打ち合わせ時のチェックリスト」発行	8,000部	全会員及び関係機関に配布
事故防止リーフレット発行 「ちょっとまって!!その食べ物」	10,000部	全会員及び関係機関、市内全児童館、学童保育所、会員登録する方に配布
ヒヤリ・ハット事例特集号	8,000部	全会員及び関係機関に配布
市民しんぶん掲載	全市版5回	講習会・交流会開催のお知らせ
提供会員募集の案内	京都市内図書館5回 こどもみらい館5回	講習会のお知らせチラシ配架
一般新聞掲載	1回 毎日新聞 3回 京都新聞	救命講習必修化・交流会開催のお知らせ・窒息防止リーフレット発行
京都市消防局フェイスブック	1回	提供会員講習会の様子
冊子掲載「私には関係ない」と思っている? (がん治療しながら働く方向け)	1回	京都市ファミリーサポートセンターの紹介
冊子掲載「京都府がん情報ガイド」	1回	京都市ファミリーサポートセンターの紹介
ウイングス京都セミナー (育休中の女性対象セミナー)	1回	京都市ファミリーサポート事業の説明

II 施設運営

1 児童館の運営

1 平成29年度事業目標

連盟が京都市から指定管理者として受託運営する8箇所の児童館は、地域の関係団体とも連携を密にし、地域における子育て支援の拠点として、市民の期待に応えられる施設運営に取り組んでいく。

2 平成29年度活動実績

		児童館事業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> 子育て家庭が地域で孤立しないよう保護者同士が交流し、つながりをもてる機会を作る。 子育て家庭に対し、関係機関等と連携し、広報活動を強化し、保護者のニーズの把握に努め、地域での暮らしを支えるネットワークを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの個々の状況に応じた生活力獲得に向けた、指導・支援を推進する。 遊びを通して、自立心・協調心や判断力・行動力を育成する活動を推進する。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児クラブ（登録制）は週3日、3クラス（0歳児・1歳児・2歳児以上親子）を継続して行うことで、ニーズに応え、子育て家庭が交流できる機会を生み出すことができた。 ランチタイムや子育て支援講座を開催することで、乳幼児クラブ登録者を中心にネットワーク構築を促すきっかけづくりをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人懇談を継続することで、個々の状況に応じた指導・支援を推進することができた。 「わくわく子どもマーケット」や「感謝の会」等、各行事に向けた取組を通して、自立心・協調心や判断力・行動力等を育成することができた。
七条第三児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを基とした利用者のニーズに合わせた乳幼児クラブなど取組の充実と、利用者が楽しく気軽に話せる関係をつくる。 児童館が主体となり行事を行うことで地域との多様なつながりをつくりだす。 親となる児童への学びや親自身が児童に関心をもつ機会をつくり、子育ての意義を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や社会性がつくように指導する。 子どもたちが主体となれる取組を増やし、生活場面に応じた判断と行動力を育む。 高学年の場づくりとして友だちや保護者、職員との関係を深められる取組を常に意識する。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度調査（アンケート）により、利用者のニーズをより深く知ることができたため、課題や要望など今後の取組につなげていく。 館まつり、防災まつり等を通し、地域の方々の活躍ができる場所として、児童館が地域の重要な拠点であることを示すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間を設けることで学童クラブに戻ってきてから宿題をする子が増えた。 おやつ時間、終わりの会、毎日の掃除を班活動とすることで職員の指示がなくても自主的に進めることができた。 小学校高学年児童のニーズを調査し、高学年おやつDAY、バレンタインデー、小説等の本の貸出、高学年向けの遊びなど、高学年にとって楽しく過ごしやすい

		<ul style="list-style-type: none"> 中高生と赤ちゃんとの交流事業等で、思春期児童と乳幼児親子と触れ合う機会を設けることで、乳幼児の保護者には中高生への不安を取り除くことができ、中高生は親からの愛情を受けて育っていることを振り返る時間となった。 	<p>い場所づくりを行った。結果、6年生の最後まで学童クラブを利用する児童が増えた。</p>
今熊野児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> 友達、仲間と遊ぶ楽しさを伝える。 集団遊びを通して、異年齢と関わる大切さや楽しさを伝える。 地域の方に気軽に児童館を利用してもらえるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 縦割りの集団生活の中で社会性を身につけ、主体的に行動できるよう援助する。 集団で遊ぶ力を育て、子ども、保護者ともに安心安全な生活の場となるよう努める。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 自由来館児童に対し、日頃から声掛けを行うことで、児童館行事や取組への参加を増やすことができた。 取組において異年齢との関わりを重視することで、高学年は下級生の憧れの存在になり、高学年は下級生に思いやりを持ち関わる等の相互作用が見られた。 児童館内だけでなく、地域に対してもじどうかんニュース等で行事内容をお知らせすることで、普段から馴染みのある方や始めての方などの参加や利用が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> おやつの時間、お誕生日会、終わりの会等は、縦割りで構成された班で行った事で社会性や思いやりの心を身につけ、リーダー育成にもつなげることができた。 集団遊びを通じて、遊ぶ力、集中力、観察力などを育むことができた。 子どもたちの様々な力が育つ様子を保護者に伝えていくことで、安心して利用してもらえる放課後の生活の場となっている。
四ノ宮児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざし、地域に親しまれ、頼りにされる児童館を目指し、地域の子育て支援に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢集団での生活や遊びを通して社会性を身につけ、生きる力を育てる。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 参加者のニーズに合わせて、乳幼児クラブや子育て相談会等、子育て支援の取組みを充実させることで、子育て世帯の児童館利用を促すことができた。 子どもたちが一体となったの踊りを行うソーランクラブでは、地域に向けて披露する機会を増やすことで、地域に親しまれるきっかけをつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年を中心とした班活動や取組を行うことで、高学年児童がリーダーとしての自覚を持ち、行動できるようになった。 家庭や小学校と連携し、児童の様子について、情報を共有しながら保育を行うことができた。
梅津北児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> 利用者からの多種多様なニーズに応え、地域全体で子どもを育てていけるような中核的役割を果たし、地域に寄り添った児童館を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学童クラブを「安心できる居場所・拠り所」として確立してゆく。 縦割り集団としての連帯感を深め他者を思い認める心を育む。 個々の状況に応じた援助のもとでの家庭支援を行う。自主、自立に向け、生きる力を育む
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児クラブ、広場活動等の充実及び地域との連携事業により、児童館への理解が促進され、多様なネットワークの構築に繋がった。 中学校と連携することにより思春期児童を対象とした活動を充実させることができた 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の共通理解や保護者・小学校との情報共有の下、個々の状況に応じた支援を行ったことで、児童の心身の安定に繋がった。 縦割りを意識した班活動や学年別グループ等における活動を行うことにより、自

		<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズや実態を把握したことで、必要な支援や要望に沿った活動に繋げることができた。 	<p>主性や自己肯定感が高まり、社会性の養成に繋がった。</p>
西京極西児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者にとって居心地の良い場所を提供する。 ・職員の個性を生かした計画、立案をする。 ・地域、関係機関との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場として居心地のよい場所作りと異年齢とクラス別をいかした活動を心がける。 ・クラブ終了後の生活を見据えた活動を行う。 ・保護者との信頼関係を大切にする。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児を対象とした乳幼児クラブについて、これまで半年ごとの月齢に分けていたが、今年度は月齢の幅を1年に広めて実施することで、日程を選択でき、月齢にある程度の幅があるため、他の子どもを見てこれからの自身の子どもの成長をイメージでき、また一方では自身の子どもの成長過程を振り返ることができた。さらに、保護者同士子育ての相談もしやすかった。 ・各種行事について、館内だけでなく地域に向けて広報していくことで、多世代が参加する行事につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス別活動として集団遊びや目標決め等を充実させた結果、少人数制により子どもたちが意見を述べやすくなり、積極性が育ち、職員の日も行き届きやすくなった。 ・高学年児童が自主的、主体的に自分たちの生活を管理するための高学年会議を行った結果、積極的に自らの行動に責任を持つようになり、低学年が楽しめるような活動の提案を行う等、優しい気持ちも育っている。 ・保護者個人懇談会を開催し、それぞれの家庭や児童館での子どもの様子を共有できた。また、親子交流会を実施することで気軽に話せる関係が少しずつ定着した
南浜児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通じ子どもたちの健全な育成と社会性の向上・自立心を養う。 ・地域の各種団体と連携し子育て家庭の支援に力を入れると共に、地域の方々との交流を図る。 ・中高生の居場所作りにも力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立させる。 <p>また、集団生活の中で自立心・責任感を育成し協調性を養う。</p>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び・行事を通じ、友だち関係の構築を図ることができた。 ・各種団体と連携を取りながら行事に取り組み、新たに学習支援などの取組にも力を入れることができた。 ・中高生クラブを今年度より本格的に立ち上げ、ボランティア活動にも積極的な参加を促した。年が明けると受験等で忙しくなり、次に引き継ぐことが次年度の課題となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や学校との連携を密に行い、地域との繋がりを意識することで、行事を通じ学童クラブ登録児童と地域住民との交流を促すことができた。 ・人数が多くなり、集団生活の指導に苦慮した1年であった。狭い空間の中でケガのないように見守る事が優先となったことは反省点である。新しい育成室が完成したことで環境は好転したので次年度に向けて一層注力していく。
横大路児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業の充実を図る。 ・伸び伸びと活動させる中にも規律を重視する。 ・各種地域団体との連携を密にする。 ・しもよこっ子開催団体との連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の決まりを学び身につける。 ・規律のある生活習慣を身につける。 ・手洗い、うがいを徹底する。 ・登下館の際の安全指導を徹底する。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・登録制の乳幼児クラブは定員を超える申込があり、ニーズに沿った取組を行えている。またベビーマッサージについても 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館目標の朗読、月のきまり」唱和をお帰りの会の際に実践することで決まりやルールを遵守することができた。

	<p>定員超えのため、2日目を設定しなければならぬほど人気が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アロマでハンドトリートメント、マミーズヨガ等のお母さんの癒しのための事業は、運動不足の解消も兼ねており好評であった。 ・おもちゃつき会等を通じて、地域の事業に職員を派遣したりして地域との連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいの指導等を行い、規律のある生活習慣を身につけることができた。 ・遊びやクラブ活動を通じて、遊びといえどもルールやマナーがあること、守らないと怪我をする場合がある事、皆との調和も図らないと団体行動もできないこと等を学ぶ機会を提供することができた。
--	---	---

2 つどいの広場運営事業

1 平成29年度事業目標

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンターの運営を受託して実施する事業である。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に0歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない。子育て親子の孤立化を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営にあたって、以下の目標を掲げて事業を実施する。

- (1) 子育て親子同士が交流を促進出来るようなイベントを継続的に実施する。
- (2) 地域との交流を重視し、洛西地域の近隣施設との連携の下、子育て関連情報発信の場とする。
- (3) アットホームな雰囲気の中で、子育ての悩みや相談を気軽に専門知識を持つアドバイザーに対して打ち明けられる態勢づくりをする。

2 平成29年度活動報告

所在地：京都市西京区大原野東竹の里町三丁目1番地
洛西東竹の里市営住宅集会所（中央）内

利用対象：市内の子育て中の親子（主に乳幼児を育てる親とその子）

開設時間：午前10時から午後4時まで

休所日：水曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～翌年1月3日）

利用料金：無料（ただし、材料代等の実費負担を必要とする場合がある。）

平成29年度ののこちゃん広場では、複数の子育て親子のふれ合いの場として、「絵本の日(読み聞かせと手遊び・パネルシアター等の組み合わせ)」を毎週2回、「一緒に遊ぼう(家庭においても親子と一緒に楽しめる遊びを紹介する取り組み)」を、月1回実施した。赤ちゃんのころから絵本に親しむ土壌を作り、体を使った遊びをあまり知らない保護者に対し、子どもとスキンシップをとりながら安全に遊ぶ方法を伝える取組であるが、こういった場の中で、保護者同士が気軽に言葉を交わし、親子共に仲間を増やしていくという流れが生まれた。

また、乳幼児連れの保護者だけでなく、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室では、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作った。地域の中で様々な年齢の人たちが子育て世代を気にかけて、いたわりあえる風土を培うように、地元に対して働きかけた。

さらに、アドバイザーは、子育てに疲れを感じていたり、子どもの発達に対する悩みを持つなど、様々な事情を抱える親子のケースに適切に対応できるようスキルアップに努め、洛西子育て支援センターをはじめ、地区の子育て関連の諸団体との連携につとめた。